

[八丈島管内における遺伝資源の収集・評価・保存]

## ロベ潮風害の把握と軽減対策技術の探索

～切り葉における葉先枯れに対する浸漬除塩効果～

高村拳士郎・菊池知古・鈴木克彰

(島しょセ八丈)

---

**【要約】** ロベの切り葉に塩水を瞬時浸漬すると葉先に障害が生じるが、塩水瞬時浸漬後9時間以内であれば真水浸漬による障害軽減効果が大きく、14日後にも障害はほぼ生じない。

---

### 【目的】

八丈島は台風などの強風に曝される機会が多く、特産切り葉のフェニックス・ロベレニー（以下、ロベ）は葉先が傷むなど潮風害に悩まされている。ロベの葉は塩水曝露から12時間以上経過すると、真水浸漬による除塩処理を行っても葉先に障害が生じることが分かっている（高村ら，2024）。そこで、本試験では、塩水瞬時浸漬後の真水への浸漬による除塩処理までの時間をより細分化して検討することで、出荷時における潮風害対策の資料とする。

### 【方法】

2025年10月2日に実験室内において、海水と同濃度の3.5%塩水（NaCl水溶液）を入れたバット内に葉の切り口が触れないように通過させて軽く振って余分な塩水を除去する方法で、十分量瞬時浸漬したロベの葉を各区5枚供試した。塩水瞬時浸漬後の真水への浸漬（以下、除塩）処理までの時間は、6、9時間後を設定し、除塩処理時間は、各区共に3秒間、1、12、24時間を設定した。また、対照区として除塩処理しない区を設け、試験区は合計9区設置した（表1）。なお、対照区および除塩処理終了後の葉体は、花瓶に生けて障害度の経時的な変化を調査した。小葉ごとの障害度は小葉全面の変色を指数4とし、以下、程度ごとに階級値化し「 $\Sigma$ （指数×各指数に該当する小葉数）/（4×調査数）×100」として求めた。葉全体の障害度は、小葉①～⑤の各部位10枚ずつの変色を目視し、平均値から算出した（図1）。

### 【成果の概要】

1. 塩水による障害症状は、はじめ、小葉の葉先から中央、基部方向に淡く茶褐色を呈し、次第に濃く変色した（図2）。
2. 塩水に瞬時浸漬してから除塩処理を9時間後までに行った場合、除塩時間の長さによる障害軽減効果に差はほぼみられず、障害度は3以下に抑制された。一方、除塩処理しないと3日後から障害がみられ、14日後には20を超えていた（図3）。
3. 塩水瞬時浸漬9時間後までは除塩処理による障害軽減効果が大きく現れることから、台風等の強風による塩飛散から9時間以内に収穫し、その後速やか除塩処理を行うことが品質を維持する上で有効であると考えられる。

### 【残された課題・成果の活用・留意点】

ナトリウムイオン以外の成分による葉先枯れへの影響を調査する。

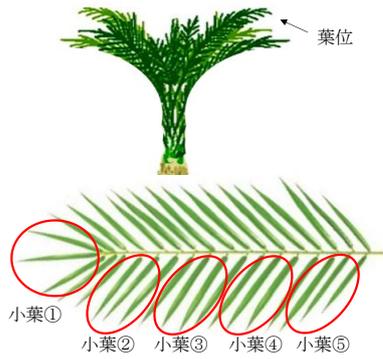


図1 サンプルング位置  
 葉位：充実した展開葉  
 小葉：葉身の葉先から基部にかけて5等分し、先端側から順に①～⑤と設定



図2 塩水によるロベ葉先の障害  
 塩水瞬時浸漬後に除塩処理しなかった葉（左）と  
 塩水瞬時浸漬6時間後に24時間除塩処理した葉（右）

表1 試験区一覧

塩水瞬時浸漬後の除塩処理までの時間	除塩処理時間					
(対照区) 直後	なし	-	-	-	-	-
6時間	-	3秒間	1時間	12時間	24時間	
9時間						

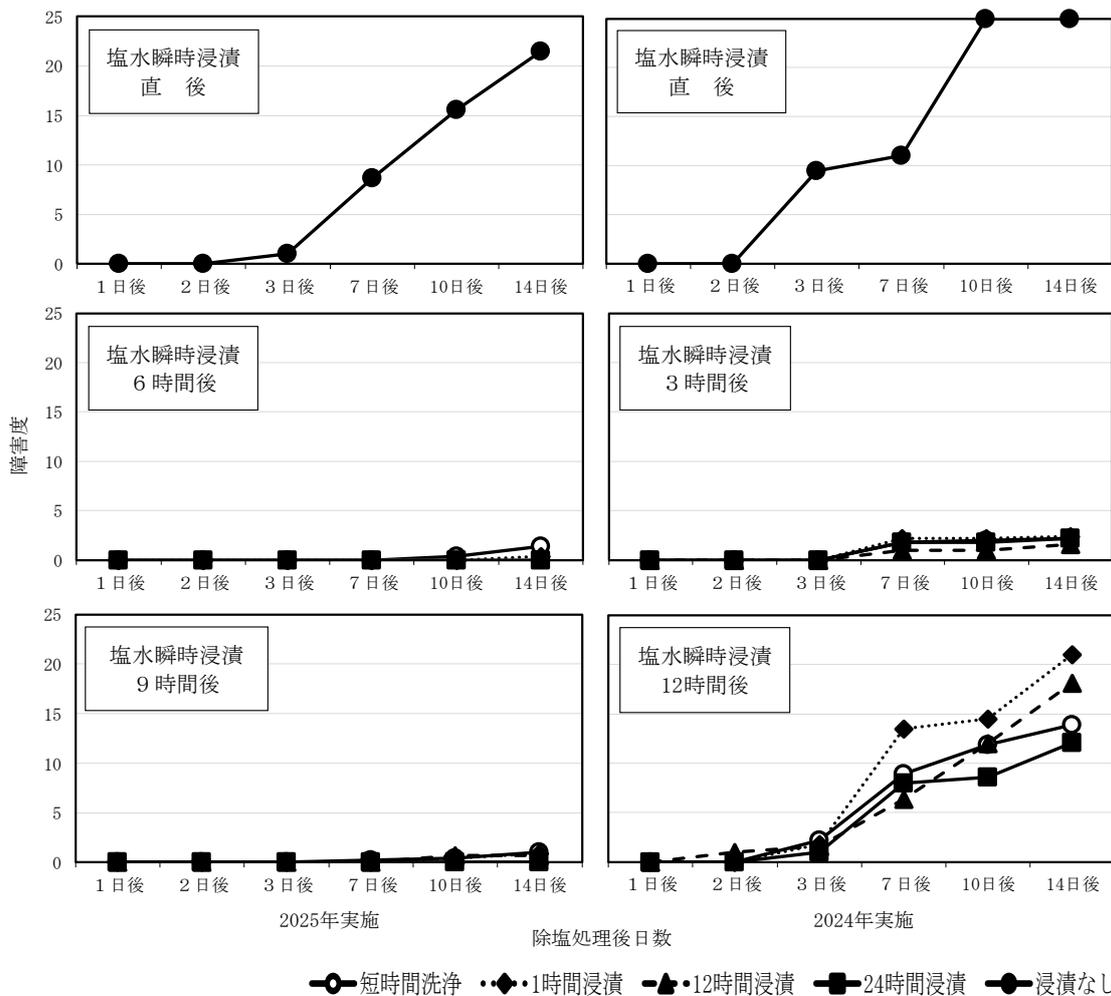


図3 塩水瞬時浸漬後の除塩処理までに経過した時間によるロベ葉先の障害度

障害度 =  $\Sigma$  (指数 × 各指数に該当する葉数) / (4 × 調査数) × 100  
 指数0：変色なし，指数0.2：小葉の先端0.2～0.5cmが変色，指数0.5：小葉の先端0.5～2cmが変色  
 指数1：小葉の1/4未満が変色，指数2：小葉の1/4以上1/2未満が変色，指数3：小葉の1/2以上3/4未満が変色  
 指数4：小葉の3/4以上が変色

a) 塩水瞬時浸漬直後，3時間後および12時間後のデータは高村ら（2024）から引用